蝶と蛾 *Trans. lepid. Soc. Japan* **47** (3) : 174-184, September 1996

# ヒロオビミドリシジミの学名とその近縁種についての知見

松田　真平

545　大阪市阿倍野区松崎町 3-3-13-516

# Taxonomic status of *Thecla orientalis* var. *cognata* Staudinger (Lepidoptera, Lycaenidae), with some notes on its related species

Shinpei MATSUDA

3-3-13-516, Matsuzaki-cho, Abeno-ku, Osaka, 545 Japan

**Abstract** Lecto- and paralectotypes of *Thecla orientalis* var. *cognata* Staudinger, 1892 are designated and illustrated, and lecto- and paralectotypes of *Favonius latifasciatus* Shirôzu & Hayashi, 1959 and *Favonius ussuriensis* Murayama, 1960 are designated by expression. *Cognata* is not a junior synonym of *Favonius taxila* (Bremer, 1861) as in the current treatment, but should be a senior synonym of *Favonius latifasciatus* Shirôzu & Hayashi, 1959 and *Favonius ussuriensis* Murayama, 1960. Informations about type series of some other related *Favonius* species are presented.

**Key words** Lycaenidae, *Favonius, Thecla orientalis* var. *cognata*, lectotype designation, Ussuri, Japan.

1993年10月，ドイツ・ベルリンのフンボルト大学付属自然史博物館に保管されるタイプ標本を調査していたとき，*Thecla orientalis* var.? *cognata* Staudinger, 1892 の syntypes の一部を実見する機会に恵まれた．これらは，図示したような7頭 (3♂4♀) の標本であったが，ジョウザンミドリシジミ，ヒロオビミドリシジミ，エンカイオオミドリシジミ (オナガミドリシジミ，ホソオビミドリシジミ) の3種の混合物であった．原記載に照らして lectotype を選定した結果，*cognata* Staudinger はヒロオビミドリシジミに対する最も古い適格名となるので，ここに報告する．

### ***Favonius cognatus*** Staudinger, 1892, **nom. rev.** ヒロオビミドリシジミ

*Thecla orientalis* var.? *cognata* Staudinger, 1892, *in* Romanoff, *Mêm. Lêpid.* **6** : 152.
*Zephyrus orientalis* : Staudinger & Rebel, 1901, *Cat. Lepid. palaearct. Faunengeb.* **1** : 71 ; Seitz, 1910, *in* Seitz, *Gross-Schmett. Erde* **1** : 269 (part. nec Murray, 1875).
*Thecla jezoensis* : Seok & Asahina, 1940, *Zephyrus* **8** : 162, figs (nec Matsumura, 1915).
*Favonius* sp. : Murayama, 1958, *New Ent.* **7** (4) : 6, figs 13-16, A.
*Favonius ussuriensis* Murayama, 1960, *Tyô Ga* **11** : 33 ; Murayama, 1963, *Tyô Ga* **14** : 48, figs 25, 26, 29, 30, A, B, E ; D'Abrera, 1993, *Butterflies holarct. Region* **3** : 420, 421, figs. **Syn. nov.**
*Favonius latifasciatus ussuriensis* : Fujioka, 1994, *Butterflies* (7) : 16, figs 15-17, text-fig. 2 : 6a.
*Neozephyrus ussuriensis vitjaz* Dubatolov & Sergeev, 1982, *Ent. Obozr.* **61** : 376, figs 7-11. **Syn. nov.**
*Favonius lativittatus* Shirôzu, 1955, *Shin-Kontyû* 8 (2) : 28, nom. nud.
*Favonius latifasciatus* Shirôzu & Hayashi in Shirôzu, 1959, *in* Inoue *et al.*, *Icon. Insect. Jap. Color. nat.* **1** : 36, pl. 20, figs 5a-d ; Shirôzu, 1966, *in* Shirôzu & Kuroko, *Common Butterlies and Moths of Japan in Color* : 42, pl. 16, figs 5a-d ; Fujioka, 1975, *Butterflies of Japan* : 116, pl. 63, figs 78-80, 87-96 ; Kawazoê & Wakabayashi, 1976, *Coloured Illustrations of the Butterlies of Japan* : 100, pl. 27, figs 4a-d ; Inomata, 1979*b*, *Gekkan-Mushi* (95) : 16.
*Favonius latifasciatus* : Inomata, 1979*a*, *Gekkan-Mushi* (95) : 13, figs 15a-d.
*Favonius latifasciatus* Shirôzu : Inomata & Ibuki, 1980, *Gekkan-Mushi* (109) : 7 ; Inomata, 1990, *Keys to the Japanese Butterflies in Natural Color* : 86, figs 585-590.
*Favonius latifasciatus latifasciatus* : Fujioka, 1994, *Butterflies* (7) : 15, text-fig. 2 : 6d.
*Favonius latifasciatus ackeryi* Fujioka, 1994, *Butterflies* (7) : 16, fig. 18.

45.　*Thecla Orientalis* Murr. (*Diamantina* Oberthür) および var.? *Cognata* Staudinger

Oberthür によって *diamantina* として記載されたものは，日本産の新鮮な *orientalis* Murr.［オオミドリシジミ］と全く区別することができず，そのシノニムにすぎないものと思われる．［オオミドリシジミは］アスコルド島，ウラジオストク，バラン産の個体を私が検しており，Fixsen は朝鮮半島からのオオミドリシジミのメスを記録し，Leech もそれを採集している[1]．

[1] Dörries がスーチャン地域からもたらした 11 ペアの標本は，日本産の典型的な *orientalis* Murr. やこれと完全に一致するアスコルド島産，バラン産，ウラジオストク産の *diamantina* Oberthür とはあまりにも違うので，私はこれを var. *cognata* と呼ぶが，*orientalis* とは別種であり，かつ別の形のものである可能性もあると考えている．というのは，これらとほとんど一致するウスリー，Suifun，アスコルド島産の 3 頭のオスが私の手元にあり，アスコルド島産で完全に同種と考えられる 4 頭のメスもあるからだ．後者のメスは，*orientalis* と *brillantinus*［アイノミドリシジミ］の雑種かも知れないと以前思っていた．*Cognata* のオスをオオミドリシジミと根本的に区別する特徴は，後翅表面外縁にある黒帯の幅がオオミドリシジミより広いことと，後翅前縁の黒がより濃いことだけである．メスは明るい灰色ではなくて，別に色づけのされた強烈な灰褐色の裏面によって特に区別される．［*Cognata* のメスの］表面は，*orientalis* のメスと全く同じであるが，当然ながらオスの場合がそうであったように，ここでも少しばかりの変容はある．両者［*cognata* と *orientalis* のメス］とも，とりわけ，前翅の中室の端にほとんどいつも線のように繊細に見えている青味を帯びた (淡い) 紋によって識別される．その後ろに，*cognata* のメスの個体によってはその青色がすっかり消失し，褐色系の斑点が現われる．4 頭のスーチャン産のメスにはメスアカミドリシジミのような褐色の斑点がくっきりと浮かんでいて，2 つの個体ではそれに加えて *taxila*［ミドリシジミ］のメスによくあるように，内縁の前と中室に青い縞がとてもはっきりと現われる．私のアスコルド島産のメスも，そのような青縞で黄色の斑点がつき，かなり特徴的なものである．

裏面からすると，これら 4 頭のスーチャン産とアスコルド島産のメスは，他の *cognata* のメスに全く適合しているので，私は，これらを当面は *cognata* の異形と見なすことにする．幅の広い黒い外縁をした典型的な 11 頭の *cognata* のオスの他に，Dörries はさらに 2 頭のオスをもたらしたが，その外縁は (ほとんど) 典型的な *orientalis* と同じくらい細い．それゆえ，*cognata* は *orientalis* と並んで，時には稀に，時にはかなりの個体数あらわれる *orientalis* の変体であるというのもあり得ないことではないかもしれない．もっとも，これを説明するのはかなり難しくなるだろうが，いずれにせよ，生息地における，また飼育による，極めて正確な観察によってのみ，いずれ光明が得られるであろう．(渡辺学氏との共訳)

*Favonius cognatus* (Staudinger) の原記載の訳

Lectotype, ♂ (Fig. 1), here designated, labelled “Origin”, “Sutschan, 90. Dörr.”, “v. *Cognata* Stgr. gg”. Paralectotypes. 1 ♂ (Fig. 2), labelled “Origin”, “Ussuri, Dörr. 82”, 1 ♂ (Fig. 3), labelled “Origin”, “Askold, Dörr. 83”, 1 ♀ (Fig. 6), labelled “Origin”, “Sutschan, 90 Dörr.”, “*Orientalis* var.? *Cognata* Stgr. g. Gruenerpt”, 1 ♀ (Fig. 4), labelled “Origin”, 1 ♀ (Fig. 5), labelled “Origin”, 1 ♀ (Fig. 7), labelled “Origin”.

Staudinger, 1892 による *cognata* の原記載の和訳は別掲の通りであるが，これから分かるように，*cognata* は基本的には Dörries によってもたらされた Sutschan (スーチャン=パルチザンスク) 産の 11 ペアの標本をもとに命名され，♂の後翅表面外縁の黒帯が幅広いこと，♀の裏面が濃い灰褐色である点で *orientalis*，オオミドリシジミと区別されることが述べられている．また，*cognata* は種より下のランク，“変種？ (var.?)”，で提出されているが，ウスリー，Suifun，アスコルド島産の同様の標本があって，*orientalis* と同所的に産出することから，Staudinger は別種の可能性を述べており，Riley (1939) 以降の取扱い通り適格な種群名として扱って差し支えないと考えられる．

原記載から判断すると，syntypes は Sutschan 産の 11 ペアの他に，ウスリー，Suifun，アスコルド島の各 1 ♂ (計 3 ♂)，アスコルド島の 4 ♀を加えた最大 14 ♂ 15 ♀と考えられるが，フンボルト大学付属自然史博物館の Staudinger コレクションに見い出されたのは，初めに記したように 3 ♂ 4 ♀の計 7 頭で，そのラベルからもこれらは正しく *cognata* の syntypes の一部と考えられる．また，

残りのsyntypesは同博物館以外に散逸したものが個人所蔵などでヨーロッパのどこかに実在している可能性も完全に否定された訳ではないが，それらの追跡は現状ではきわめて困難である．

フンボルト大学付属自然史博物館に所蔵されるsyntypesの各標本は，Fig. 1に示したものがヒロオビミドリシジミ，Figs 2, 3, 4, 5はジョウザンミドリシジミ，Figs 6, 7はエンカイオオミドリシジミ(ホソオビミドリシジミ，オナガミドリシジミ）であるが，lectotypeはSutschan産の標本（Figs 1, 6）の中から選定されるのが最も自然であり，また，Staudingerは，*cognata*の一番の特徴を♂後翅表外縁の黒帯が幅広いこととみなしていたことが原記載から判断できるので，♂をlectotypeに指定する方がより好ましいと思われる．Sutschan産のFig. 6の♀については，原記載に照らしてもこれをlectotypeにすべきより積極的な理由が見い出せない．この結果，Fig. 1の♂をlectotypeに指定する．この♂は，今日ヒロオビミドリシジミの名称で呼ばれる種集団に属するので，ヒロオビミドリシジミの種名は上記のように変更され，同種の模式産地もウスリーのSutschanとなる．

後述のように，Riley (1939, 1940）は大英博物館所蔵の*cognata*と同定された標本を調べ，初め*ultramarina*のシノニムに(1939)，次いで独立種に(1940）しているので，この標本はあるいはsyntypesの一部かとも考えられたが，私が大英博物館で調査したときは，*cognata*のsyntypesと考えられるような標本はなかった．*Cognata*と同定された標本の由来は不明であるが，模式系列とは無縁と思われる．

*Cognata*のlectotypeは，ヒロオビミドリシジミのウスリー・朝鮮半島産に多い斑紋の系統を示す．日本産と比べて裏面の褐色味がやや強く，後翅裏面の肛角紋が大きい．表面は青味がかる．この系統のものは村山(1960）により*ussuriensis*と命名されたものと同一である．日本から記載された*latifasciatus*と*ussuriensis*が同種か否かはなお別の問題として残るが，猪又（1979*a*, 1979*b*, 1986）や藤岡(1994）の取扱いに従ってこれらを同一種としたうえで，今日区分される亜種を整理すると次の通りである．

*Favonius cognatus cognatus* (Staudinger, 1892)
　=*Favonius ussuriensis* Murayama, 1960.
　=*Favonius ussuriensis vitjaz* (Dubatolov & Sergeev, 1982).
　　ウスリー・アムール・朝鮮半島・中国（吉林省・湖北省).
*Favonius cognatus latifasciatus* Shirôzu & Hayashi, 1959, **stat. nov**.
　　日本（本州西部).
*Favonius cognatus ackeryi* Fujioka, 1994, **stat. nov**.
　　中国（雲南省).

また，*ussuriensis* MurayamaについてはD'Abrera (1993）でもそのタイプの扱いが誤って表示されているので，そのことも付記しておく．このタクソンは，初め村山(1958）により1対の標本をもとに*Favonius* sp.として記載され，雌雄の標本と♂交尾器valvaが図示された．*Ussuriensis*の名称が与えられたのは2年後の村山(1960）によってであるが，そこでは記載やタイプ標本の指定はなされず，村山(1958）の記載と図を引用する形をとっている．従って，*ussuriensis*の模式系列は雌雄2頭のsyntypesである．沿海州のこの属の分類は種レベルでもまだ確定していないので，ここに*ussuriensis*のlectotypeを指定し，タイプについての今後の混乱が起きないようにしておきたい．Lectotype ♂ (Fig. 8)，村山(1958）に図13, 15として図示された個体(Ussuri, Kasakevitsch Coll., 1905). Paralectotype. 1♀ (Fig. 9)，村山(1958）に図14, 16として図示された個体（データは同じ）．いずれも，村山修一氏が所蔵される．なお，D'Abrera (1993）に示された3個体の内，裏面の図示された♂がlectotype，♀がparalectotypeであるが，paratype (Ussuri）として図示された♂は，恐らく村山(1963）が原記載以後に入手したもので，模式系列とは無縁である．

一方，*latifasciatus*は北隆館の原色昆虫大図鑑**1**に登場したのが最初であるが，模式系列についての情報は公表されていないと思われる．大陸産の場合と違い，同定上の後々の問題は少ないと考えられるが，*ussuriensis*と同じようにlectotypeを指定しておきたい．Lectotype ♂，白水(1959）の第20図版，図5aに示された個体．Paralectotypes. 1♂2♀，白水(1959）の第20図版，図5b, 5c, 5dに示された個体．産地はいずれも山口県佐波郡長者原．九州大学に所蔵される．

なおこの機会に，本邦産の近似種のタイプ標本についての情報を提供し，併せてシノニミックリス

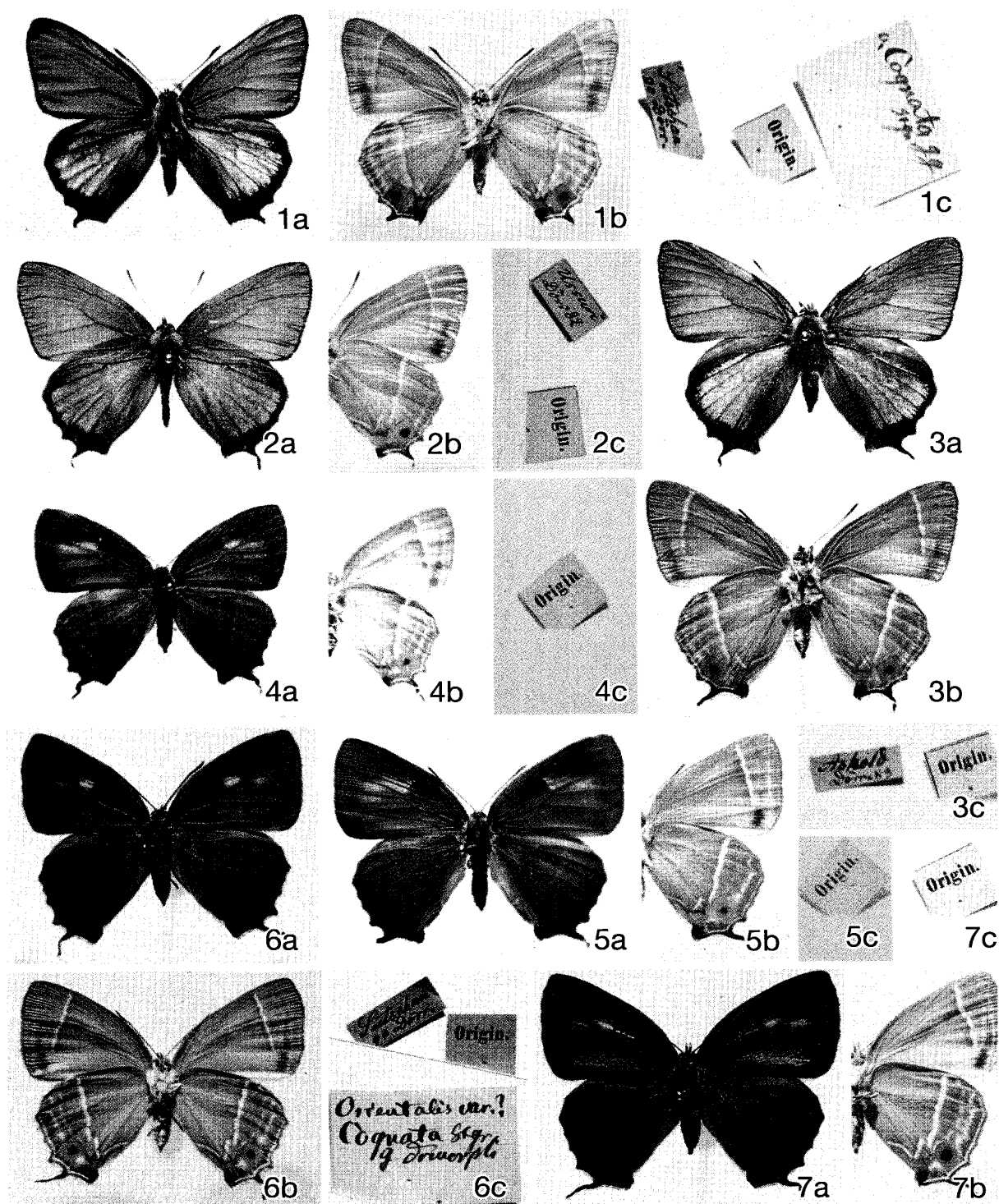
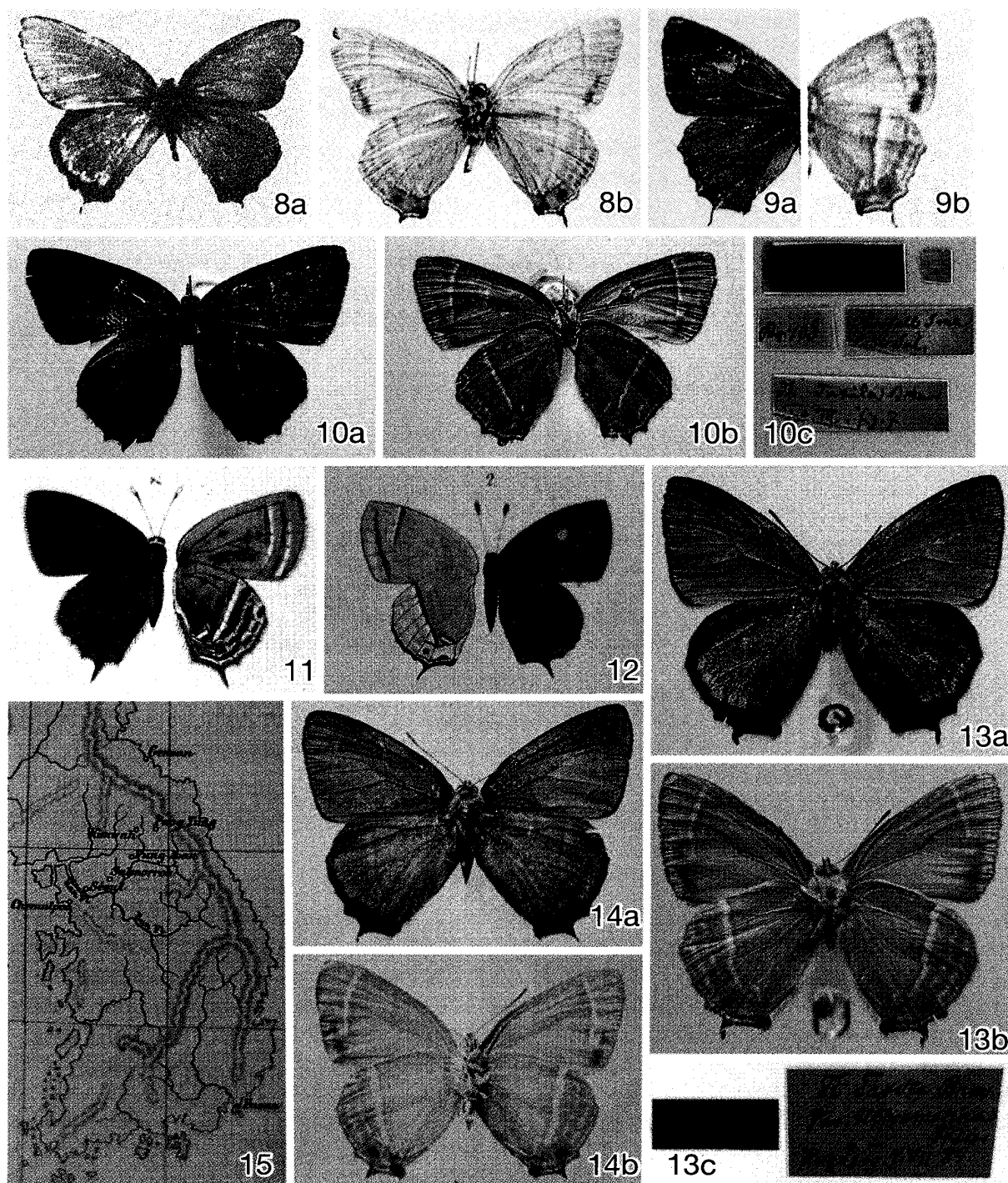
トも掲げておきたい．*Taxila* および *ultramarinus* については，タイプのカラー写真が図示されるのは初めてである．

**_Favonius taxila_** (Bremer, 1861) ジョウザンミドリシジミ

*Thecla taxila* Bremer, 1861, *Bull. sci. Acad. Sci. St. Pētersb.* **3**: 470.
*Neozephyrus (Favonius) taxila*: Dubatolov & Sergeev, 1987, *Nasekom'ye, Kleshchi i Gel'mantry, Novosibirsk, Nauka Siberian dept.*: 19.
*Favonius taxila*: Inomata, 1987, *Gekkan-Mushi* (200): 7; Inomata, 1990, *Keys to the Japanese Butterflies in Natural Color*: 80, figs 558-560.
*Zephyrus taxila*: Staudinger & Rebel, 1901, *Cat. Lepid. palaearc. Faunengeb.* **1**: 71; Seitz, 1910, *in* Seitz, *Gross-Schmett. Erde* **1**: 270 (part. nec Bremer, 1861).
*Zephyrus taxila* v. *ultramarina*: Staudinger & Rebel, 1901, *Cat. Lepid. palaearc. Faunengeb.* **1**: 71 (nec Fixsen, 1887).
*Zephyrus taxila ultramarina*: Seitz, 1910, *in* Seitz, *Gross-Schmett. Erde* **1**: 270 (nec Fixsen, 1887).
*Zephyrus jozanus* Matsumura, 1915, *Ent. Mag. Kyoto* **1** (2): 58, 61, pl. 2, fig. 8; Gaede, 1932, *in* Seitz, *Gross-Schmett. Erde* **1** (Suppl.): 243.
*Zephyrus jozana*: Matsumura, 1931, *6000 illust. Insects Japan-Empire*: 573, figs.
*Zephyrus diamantinus*: Esaki, 1935, *Zephyrus* **6**: 53 (nec Oberthür, 1880).
*Thecla ultramarina*: Riley, 1939, *Novit. zool.* **41**: 357 (part. nec Fixsen, 1887).
*Thecla ultramarina* f. *jozanus*: Riley, 1939, *Novit. zool.* **41**: 357.
*Favonius ultramarinus*: Sibatani & Ito, 1942, *Tenthredo* **3**: 327, fig. 21 (part. nec Fixsen, 1887).
*Thecla cognata*: Riley, 1940, *Entomologist* **73**: 162 (nec Staudinger, 1892).
*Thecla cognata jozanus*: Riley, 1940, *Entomologist* **73**: 163.
*Ruralis orientalis hecalina* Bryk, 1946, *Ark. Zool.* **38** (A) 3: 51.
*Favonius cognatus*: Esaki, 1954, *Kontyû* **21**: 34; Shirôzu, 1959, *in* Inoue *et al.*, *Icon. Insect. Jap. Color. nat.* **1**: 35, pl. 20, figs 3a-d; Shirôzu, 1966, *in* Shirôzu & Kuroko, *Common Butterlies and Moths of Japan in Color*: 41, pl. 16, figs 2a-d; Fujioka, 1975, *Butterflies of Japan*: 117, pl. 63, figs 46-77, 81-86, pl. 64, figs 43-45; Kawazoé & Wakabayashi, 1976, *Coloured Illustrations of the Butterlies of Japan*: 99, pl. 27, figs 2a-e (nec Staudinger, 1892).
*Favonius cognata jozanus*: Esaki, 1954, *Kontyû* **21**: 34.
*Thecla taxila* var. *aurorinus* Oberthür, 1880, *Études d'Ent.* **5**: 18.
*Favonius aurorinus*: Inomata & Ibuki, 1980, *Gekkan-Mushi* (109): 7.
*Zephyrus taxila ?aurorina*: Stauinger & Rebel, 1901, *Cat. Lepid. palaearc. Faunengeb.* **1**: 71 (nec Oberthür, 1880).
*Zephyrus taxila* ab. *aurorina*: Seitz, 1910, *in* Seitz, *Gross-Schmett. Erde* **1**: 270 (part. nec Oberthür, 1880).

*Taxila* の holotype (♀) (Fig. 10) は，既に Dubatolov & Sergeev (1987) が述べているようにジョウザンミドリシジミである．私も1993年11月にサンクトペテルスブルグ動物学博物館を訪れる機会があり，その標本を実見したが，同じ標本箱の中には，他にメスアカミドリシジミ *smaragdinus* Bremer, 1861 の♂ lectotype と，"*smaragdinus*, paratype" とラベルされたオオミドリシジミの♂1頭が，ミドリシジミ類各種の普通標本とともに収納されていた．Dubatolov 氏は，こうした各種標本が入り混じった中から *taxila* の holotype を探し出し，タイプラベルを付けたものと思われる．

藤岡 (1994) がレニングラードにある *taxila* のタイプ標本について，「オオミドリシジミ，メスアカミドリシジミ，ジョウザンミドリシジミの3種の♂の混合であった」と述べた文章は，Dubatolov 氏の処理した内容を勘違いされたか，早とちりされたもののように思われる．ちなみに，同博物館で *taxila* として整理，収納されていた普通標本は，全てミドリシジミ *Neozephyrus japonicus* (Murray, 1874) であった．

一方，*taxila* が長らくミドリシジミの種名として誤用された原因のひとつは，Leech (1893) が *Dipsas japonica* Murray, 1874 を *Zephyrus taxila* var. *japonica* として解説したことにある．一方ジョウザンミドリシジミに対しては松村 (1915) により *jozanus* として記載された後，*diamantinus* Oberthür, 1880 (江崎, 1935), *ultramarina* Fixsen, 1887 = *cognata* Staudinger, 1892 (Riley, 1939), *cognata* Staudinger, 1892 (Riley, 1940) などが誤って使われていた．Riley (1939, 1940) の *cognata* は，そのように同定された大英博物館所蔵の標本に依っているが，その同定者は不明である．なお，

Figs 1–7. Syntypes of *Favonius cognatus* (Staudinger) in Coll. Museum für Naturkunde der Humboldt Universität, Berlin (a : upperside, b : underside, c : label (s)). 1. Lectotype, ♂. 2. Paralectotype, ♂. 3. Paralectotype, ♂. 4. Paralectotype, ♀. 5. Paralectotype, ♀. 6. Paralectotype, ♀. 7. Paralectotype, ♀.

Figs 8–9. Syntypes of *Favonius ussuriensis* Murayama (a : upperside, b : underside). 8. Lectotype, ♂ (b : after D'Abrera, 1993). 9. Paralectotype, ♀ (a : after D'Abrera, 1993).

Figs 10–12. *Favonius taxila* (Bremer). 10. Holotype, ♀, in Coll Zoological Institute, Academy of Sciences, St Petersburg (a : upperside, b : underside, c : labels). 11. Holotype illustrated in Bremer (1864). 12. ♀ illustrated in Bremer (1864).

Figs 13–14. *Favonius ultramarinus* (Fixsen) (a : upperside, b : underside, c : labels). 13. Holotype, ♂, in Coll. Zoological Institute, Academy of Sciences. St Petersburg. 14. ♂ illustrated as holotype by D'Abrera (1993), in Coll. The Natural History Museum, London.

Fig. 15. Map of Korea showing Pung Tung (after Fisxen, 1887).

Bryk (1946) による *Ruralis orientalis hecalina* のタイプは，A斑の小型の♀で，最近，Wakabayashi (1986) によりジョウザンミドリシジミのシノニムとされた．

また，*aurorina* Oberthür, 1880 について，大英博物館の1頭の syntype は，それまで考えられていたようなアイノミドリシジミではなく，ジョウザンミドリシジミのA斑の♀であったことが近年明らかになっている (猪又，1980)．この標本は，Riley (1939) が "a type specimen" と言及しているものと思われるが，本種の原記載を読む限りジョウザンミドリシジミを記載したものとは考えにくい部分もある (例えば，鮮やかなサフランイエローのA斑と，ときにB斑が同時に存在する個体が記述されていることなど)．*Aurorina* の syntypes の中には，従ってアイノミドリシジミも含まれている可能性があると思われるが，Riley (1939) の表示を，厳密な意味では難しいとしても事実上の lectotype の指定と看做せるならば，大英博物館の1頭の syntype がジョウザンミドリシジミであった事実を尊重し，ここでは猪又 (1980) 以来の取り扱いを踏襲しておく．

### ***Favonius ultramarinus*** (Fixsen, 1887) ハヤシミドリシジミ

*Thecla taxila* var. *ultramarina* Fixsen, 1887, *in* Romanoff, *Mém. Lépid.* **3**: 278.
*Zephyrus taxila*: Staudinger & Rebel, 1901, *Cat. Lepid. palaerc. Faunengeb.* **1**: 71 (part. nec Bremer, 1861).
*Zephyrus taxila ultramarina*: Seitz, 1910, *in* Seitz, *Gross-Schmett. Erde* **1**: 270 (nec Fixsen, 1887).
*Thecla ultramarina*: Riley, 1939, *Novit. zool.* **41**: 357 (part. nec Fixsen, 1887).
*Thecla ultramarina*: Riley, 1940, *Entomologist* **73**: 162 (part. nec. Fixsen, 1887).
*Favonius ultramarinus*: Sibatani & Ito, 1942, *Tenthredo* **3**: 327 (part. nec Fixsen, 1887).
*Favonius ultramarinus*: Esaki, 1954, *Kontyû* **21**: 34; Fujioka, 1975, *Butterflies of Japan*: 115, pl. 64, fig. 41, pl. 64, figs 46-77, pl. 65, fig. 94; Kawazoé & Wakabayashi, 1976, *Coloured Illustrations of the Butterlies of Japan*: 100, pl. 27, figs 3a-d; Inomata, 1990, *Keys to the Japanese Butterflies in Natural Color*: 83, figs 576-584.
*Zephyrus orientalis*: Esaki, 1935, *Zephyrus* **6**: 51, pl. 5, fig. 7 (nec Murray, 1875).
*Ruralis orientalis chosenicola* Bryk, 1946, *Ark. Zool.* **38** (A) 3: 51.
*Thecla jezoensis*: Seok, 1942, *Bull. nat. Hist. Soc. Kagoshima* **1**: 62 (nec Matsumura, 1915).
*Favonius hayashii* Shirôzu, 1951, *Kontyû* **19**: 61, pl. 5, figs 1-4.
*Favonius ultramarinus hayashii*: Esaki, 1954, *Kontyû* **21**: 34; Shirôzu, 1959, *in* Inoue *et al.*, *Icon. Insect. Jap. Color. nat.* **1**: 36, pl. 20, figs 6a-d; Shirôzu, 1966, *in* Shirôzu & Kuroko, *Common Butterlies and Moths of Japan in Color*: 42, pl. 16, figs 6a-d.
*Favonius hayashii borealis* Murayama, 1953, *Tyô Ga* **3**: 20, figs.

*Thecla taxila* var. *ultramarina* は，原記載から判断して単一模式 (monotypy) による命名であり，holotype (Fig. 13) はサンクトペテルスブルグ動物学博物館に所蔵される♂である．D'Abrera (1993: 420, 421) により holotype として図示された大英博物館所蔵の♂ (Fig. 14, with 7 labels as "Type", "17. 7. 84 Herz, 25. 4. 85 Var. *Ultramarina*", "ex coll. Christoph. Pungtung Corea Herz, 17. 7. 84", "Elwes Coll. 1902-85", "Var. Fixs. *Ultramarina*", "T. G. H. 1955, 145", "d, Puoog, J 1775") は，私が同博物館で調査したときの標本と同じで，そのデータは "17. 7. 84" となっており，原記載に示された標本のデータ (7. Jili) から見てもタイプとは無縁のものである．また，今まで正確には不明だった *ultramarina* の模式産地は，そのラベルに略記された産地 "PgTg" と Fixsen (1887) の地図 (Fig. 15) から Pungtung (大韓民国江原道の白石山山麓 (古芳山？)) であることが分かった．また，その採集者は，Alfred Otto Herz (1852-1905) というドイツの昆虫学者であることも，そのラベルの "Herz" の文字から判断できる．なお，Bryk (1946) による *Ruralis orientalis chosenicola* は，最近，Wakabayashi (1986) により *ultramarinus* のシノニムとされた．

### ***Favonius jezoensis*** (Matsumura, 1915) エゾミドリシジミ

*Zephyrus jezoensis* Matsumura, 1915, *Ent. Mag. Kyoto* **1** (2): 57, pl. 2, fig. 8; Matsumura, 1931, *6000 illust. Insects Japan-Empire*: 572, figs; Gaede, 1932, *in* Seitz, *Gross-Schmett. Erde* **1** (Suppl.): 243.
*Thecla jezoensis*: Sibatani, 1941, *Zephyrus* **9**: 100.
*Favonius jezoensis*: Sibatani & Ito, 1942, *Tenthredo* **3**: 327; Shirôzu, 1959, *in* Inoue *et al.*, *Icon. Insect. Jap. Color. nat.* **1**: 36, pl. 20, figs 4a-d; Shirôzu, 1966, *in* Shirôzu & Kuroko, *Common Butterflies and Moths of Japan in Color*: 41, pl. 16, figs 3a-d; Fujioka, 1975, *Butterflies of Japan*: 114, pl. 64, figs 1-

Table 1. A list showing the name changes in 6 species of *Favonius* and *Neozephyrus*.

| Present usage | ***F. taxila*** | ***N. japonicus*** | ***F. orientalis*** | ***F. ultramarinus*** | ***F. cognatus*** | ***F. jezoensis*** |
|---|---|---|---|---|---|---|
| Bremer, 1861 | *taxila* | | | | | |
| Murray, 1874 | | *japonicus* | | | | |
| Murray, 1875 | | | *orientalis* | | | |
| Staudinger, 1887 | | *taxila* | *orientalis* =*diamantina* | | | |
| Fixsen, 1887 | | *taxila* | *orientalis* =*diamantina* | var. of *taxila* | | |
| Staudinger, 1892 | | *tavila* | *orientalis* =*diamantina* | | var. of *orientalis* | |
| Staudinger & Rebel, 1901 | | *taxila* | *orientalis* =*diamantina* | [*orientalis*] | [*orientalis*] | |
| Seitz, 1910 | | *taxila* | *orientalis* | ssp. of *taxila* | [*orientalis*] | |
| Matsumura, 1915 | *jozanus* | | *orientalis* | | | *jezoensis* |
| Matsumura, 1931 | *jozanus* | *taxila* | *orientalis* | | | *jezoensis* |
| Esaki, 1935 | *diamantina* =*jozanus* | | | | | |
| Riley, 1939 | *ultramarina* f. *jozanus* | | | *ultramarina* | [*ultramarina*] | ssp. of *ultramarina* |
| Riley, 1940 | *cognata* f. *jozanus* | | | *ultramarina* | [*cognata*] | ssp. of *ultramarina* |
| Seok & Asahina, 1940 | | | | | *jezoensis* | |
| Sibatani, 1941 | *ultramarina* =*jozanus* | | | *ultramarina* | [*ultramarina*] | *jezoensis* |
| Sibatani & Ito, 1942 | *ultramarinus* sspz *jozanus* | | *orientalis* | [*ultramarinus*] | *ultramarina* | *jezoensis* |
| Shirôzu, 1951 | *ultramarinus* | | *orientalis* | *hayashii* | | *jezoensis* |
| Esaki, 1954 | *cognatus* ssp. *jozanus* | | *orientalis* | *ultramarinus* =*hayashii* | | *jezoensis* |
| Shirôzu & Yamamoto, 1956 | *cognatus* =*jozanus* | *taxila* | *orientalis* | *ultramarinus* =*hayashii* | | *jezoensis* |
| Murayama, 1958 | | | | | sp. | |
| Shirôzu, 1959 | *cognatus* =*jozanus* | *taxila* | *orientalis* | *ultramarinus* =*hayashii* | *latifasciatus* | *jezoensis* |
| Murayama, 1960 | | | | | *ussuriensis* | |
| Murayama, 1963 | | | | | *ussuriensis* ≠*latifasciatus* | |
| Fujioka, 1975 | *cognatus* | *taxila* | *orientalis* | *ultramarinus* | *latifasciatus* | *jezoensis* |
| Kawazoê & Wakabayashi, 1976 | *cognatus* | *taxila* | *orientalis* | *ultramarinus* | *latifasciatus* | *jezoensis* |
| Wakabayashi, 1976 | | | | | | |
| Inomata, 1979 | | | | | *latifasciatus* =*ussuriensis* | |
| Inomata & Ibuki, 1980 | *aurorinus* =*cognatus* =*jozanus* | | | | | |
| Dubatolov & Sergeev, 1982 | | | | | *ussuriensis* *vitjaz* | |
| Wakabayashi, 1986 | *aurorinus* =*hecalina* | | | *ultramarinus* =*chosenicola* | | |
| Dubatolov & Sergeev, 1987 | *taxila* =*cognatus* | *japonicus* | *orientalis* | *ultramarinus* | *latifasciatus* =*ussuriensis* | *jezoensis* |
| Inomata, 1990 | *taxila* | *japonicus* | *orientalis* | *ultramarinus* =*hayashii* | *latifasciatus* =*ussuriensis* | *jezoensis* |
| D'Abrera, 1993 | | | | | *ussuriensis* ≠*latifasciatus* | |
| Fujioka, 1994 | *taxila* =*aurorinus* =*cognatus* =*jozanus* | | *orientalis* =*schischkini* =*primoriensis* | *ultramarinus* =*hayashii* ssp. *suffusa* | *latifasciatus* ssp. *ussuriensis* ssp. *ackeryi* | *jezoensis* |

40, pl. 65, fig. 99 ; Kawazoé & Wakabayashi, 1976, *Coloured Illustrations of the Butterflies of Japan* : 94, pl. 26, figs 4a-e ; Inomata, 1990, *Keys to the Japanese Butterflies in Natural Color* : 83, figs 570-575.
*Thecla ultramarina* : Riley, 1939, *Novit. zool.* **41** : 357 (part. nec Fixsen, 1887).
*Thecla ultramarina jezoensis* : Riley, 1939, *Novit. zool.* **41** : 357.
*Thecla ultramarina* : Riley, 1940, *Entomologist* **73** : 162 (part. nec Fixsen, 1887).
*Thecla ultramarina jezoensis* : Riley, 1940, *Entomologist* **73** : 163.
*Favonius jezoensis magnificans* Murayama, 1953, *Tyô Ga* **4** : 10, figs.

Riley (1939) は初め *ultramarina*＝*cognata* として *jezoensis* をその亜種としたが，すぐにこれを訂正して *ultramarina* と *cognata* を別種とし，その上で改めて *jezoensis* を *ultramarina* の亜種とした (Riley, 1940). 原記載以降，*jezoensis* を正しく独立種と認めたのは，柴谷 (1941) である.

## 謝 辞

この報文の発表にあたり，多くのご援助とご教示を賜わった東京高等学校の吉本浩氏，多くの有益な助言を賜わり，内外の文献の収集にご協力下さった大阪府立大学昆虫学研究室の広渡俊哉氏ならびに石井実氏，北九州市立自然史博物館の上田恭一郎氏，原稿に目を通して頂き，終始暖かく見守って下さった九州大学名誉教授の白水隆氏および同大学教授の三枝豊平氏，ロシアの文献の閲覧の際お世話になった柴谷篤弘氏と中西明徳氏，ロンドンなどヨーロッパの博物館訪問時に多くのご援助を頂いた大阪府立大学名誉教授の保田淑郎氏ならびに大阪市の若林守男氏，貴重なタイプ標本と文献についてご教示を頂いた高槻市の村山修一氏，ウスリーの地名とラベルの文字について助言を頂いた大阪芸術大学の駒井古実氏，ドイツ語文献の和訳の際にお世話になった獨協大学の渡辺学氏，のご厚意についてここに厚く感謝申し上げる.

## 引用文献

Bremer, O., 1861. Neue Lepidopteren aus Ost Sibirien und dem Amur-Lande, gesammelt von Radde und Maack. *Bull. Acad. imp. Sci. St. Pétersb.* **3** : 462-496.
———, 1864. Lepidopteren Ostsibiriens, insbesondere des Amur-Landes, gesammelt von den Herrn G. Radde, R. Maack und P. Wulffius. *Mém. Acad. imp. Sci. St. Pétersb.* (7) **8**, 1 : 1-103, pls 1-8.
Bryk, F., 1946. Zur Kenntnis der Gross-Schmetterlinge von Korea. Pars I. Rhopalocera, Hesperoidea et Macrofrenatae I (Sphingidae). *Ark. Zool.* **38** (A) 3 : 1-74, pls 1-5.
D'Abrera, B., 1993. Libytheidae, Riodinidae & Lycaenidae. *Butterflies of the Holarctic Region* **3** : 335-524.
Dubatolov, V. V. and M. G. Sergeev, 1982. New hairstreaks of the tribe Theclini (Lepidoptera, Lycaenidae) from the USSR. *Ent. Obozr.* **61** : 375-381 (in Russian).
——— and ———, 1987. Notes on the systematic of hairstreaks genus *Neozephyrus* Sibatani et Ito (Lepidoptera, Lycaenidae). *Nasekom'ye, Kleshchi i Gel'mantry, Novosibirsk, Nauka Siberian dept.* : 18-30 (in Russian).
Elwes, H. J., [1882]. On the butterflies of Amurland, North China, and Japan. *Proc. zool. Soc. Lond.* **1881** : 856-916.
江崎悌三, 1935. 日本産 *Zephyrus* 総説 (3). *Zephyrus* **6** : 51-58.
———, 1954. 日本産蝶類の覚書 (1). 昆蟲 **21** : 32-37.
Fixsen, C., 1887. Lepidoptera aus Korea. *In* Romanoff, N. M. (ed.), *Mém. Lépid.* **3** : 233-356, pls 13-15.
藤岡知夫, 1975. 日本産蝶類大図鑑. 312 pp., 142 pp. 講談社, 東京.
———, 1994. 世界のゼフィルス (5)―オオミドリシジミ属―. *Butterflies* (7) : 3-17.
Gaede, M., 1932. Genus : *Zephyrus* Dalm. *In* Seitz, A. (ed.), *The Macrolepidoptera of the World* **1** (Suppl.) : 242-243, pl. 15.
猪又敏男, 1979*a*. 朝鮮のミドリシジミ族. 月刊むし (95) : 3-15.
———, 1979*b*. 極東ロシアのミドリシジミ族について. 月刊むし (95) : 16-18.
———, 1987. 極東アジア地域のミドリシジミ族・その後. 月刊むし (200) : 7-9.
———, 1990. 原色蝶類検索図鑑. 223 pp. 北隆館, 東京.
猪又敏男・伊吹正吾, 1980. 日本産蝶類の学名について (1). 月刊むし (109) : 5-11.
川副昭人・若林守男, 1976. 原色日本蝶類図鑑. 422 pp. 保育社, 大阪.
Leech, J. H., 1893. Genus *Zephyrus*. *On the Butterflies of China, Japan and Corea* **2** : 369-394, pls 27, 28.
Matsumura, S., 1915. Some new species and varieties of butterflies from Japan. *Ent. Mag. Kyoto* **1** (2) :

55-61, pl. 2.
松村松年, 1931. 日本昆虫大図鑑. 1497 pp. 刀江書院, 東京.
村山修一, 1953. 日本産シジミチョウ科数種について (I). 蝶と蛾 **3**: 17-21.
———, 1953. 日本産シジミチョウ科数種について (II). 蝶と蛾 **4**: 10-12.
———, 1958. アジア大陸のミドリシジミ類覚書—日本産亜種の問題に関連して—. ニュー・エントモロジスト **7** (4): 4-6.
———, 1960. 日本・朝鮮及び台湾の蝶類に関する新知見. 蝶と蛾 **11**: 28-33.
———, 1963. 日本及び朝鮮産蝶類覚書. 蝶と蛾 **14**: 43-50.
Murray, R. P., 1874. Notes on Japanese butterflies, with descriptions of new genera and species. *Entomologist's mon. Mag.* **11**: 166-172.
Oberthür, C., 1880. Faune de Lêpidoptères de l'île Askold. Première Partie. *Études d'Ent.* **5**: i-x, 1-88, pls 1-9.
Riley, N. D., 1939. Notes on Oriental Theclinae (Lep. Lycaenidae) with descriptions of new species. *Novit. zool.* **41**: 355-361.
———, 1940. Notes on Oriental Theclina: a correction. *Entomologist* **73**: 162-163.
Seitz, A., 1910. Genus: *Zephyrus* Dalm. *In* Seitz, A. (ed.), *The Macrolepidoptera of the World* **1**: 269-274, pl. 73-74.
石 宙明, 1942. 朝鮮産蝶類の研究 (第二報). 鹿児島博物同志会研究報告 (1): 5-95.
石 宙明・朝比奈正二郎, 1940. 朝鮮・東北地方産蝶類採集記録. *Zephyrus* 8 (3/4): 155-164.
Shirôzu, T., 1951. A new species of *Favonius* from Japan (Lep., Lycaenidae). *Kontyû* **19**: 60-66, 1 pl.
白水 隆, 1955. 蝶類雑記 [2]. 日本産ミドリシジミ類にみる分布の諸型について. 新昆虫 8 (2): 25-32.
———, 1959. 蝶. 井上 寛他, 原色日本昆虫図鑑 **1**: 284 pp. 北隆館, 東京.
———, 1966. チョウ類. 白水 隆・黒子 浩, 標準原色図鑑全集 **1** (蝶・蛾): 1-102, pls 1-40. 保育社, 大阪.
柴谷篤弘, 1941. 日本産数種のミドリシジミの学名に就いて. *Zephyrus* **9**: 99-102.
Sibatani, A. and S. Ito, 1942. Beitrag zur Systematik der Theclinae im Kaiserreich Japan unter besonderer Berücksichtingung der sogenannten Gattung *Zephyrus* (Lepidoptera, Lycaenidae). *Tenthredo* **3**: 299-334.
Staudinger, O., 1892. Die Macrolepidopteren des Amurgebiets. I. Theil. Rhopalocera, Sphinges, Bombyces, Noctuae. *In* Romanoff, N. M. (ed.), *Mêm. Lêpid.* **6**: 83-658, pls 4-14.
Staudinger, O. & H. Rebel, 1901. *Catalog der Lepidopteren des palaearctischen Faunengebietes.* **1**. Theil: i-[xxxii], 1-411. Berlin.
Wakabayashi, M., 1986. Notes on some Korean thecloid butterflies described by F. Bryk (Lepidoptera: Lycaenidae). *Nature Life* **16** (2): 37-40.

## Summary

Syntypes (3♂ 4♀, figs 1-7) of *Thecla orientalis* var. *cognata* Staudinger, 1892, were examined at Humboldt-Universität Museum. They were a mixture of three *Favonius* species, and lecto- and paralectotypes were here designated carefully based on the original descritpion by Staudinger, 1892. As a result, *cognata* is not a synonym of *Favonius taxila* (Bremer, 1861), but a senior synonym of *Favonius latifasciatus* Shirôzu and Hayashi, 1959 and *Favonius ussuriensis* Murayama, 1960.

In this paper, lectotypes of *F. latifasciatus* and *F. ussuriensis* were also designated (lectotype of *F. latifasciatus*: ♂ figured by Shirôzu (1959) in Pl. 20, Fig. 5a, Japan, Yamaguchi Pref., Chojagahara; lectotype of *F. ussuriensis*: ♂ figured by Murayama (1958) in Figs 13, 15, Ussuri). According to Fujioka's (1994) division of subspecies, these taxa are summarized as follows including his ssp. *ackeryi*.

*Favonius cognatus cognatus* (Staudinger, 1892), nom. rev.
  *Favonius ussuriensis* Murayama, 1960, syn. nov.
  *Favonius ussuriensis vitjaz* (Dubatolov & Sergeev, 1982), syn. nov.
    Ussuri, Amur, Korea, China (Jilin, Hubei).
*Favonius cognatus latifasciatus* Shirôzu & Hayashi, 1959, stat. nov.
    Japan (westen part of Honshu).

*Favonius cognatus ackeryi* Fujioka, 1994, stat. nov.
China (Yunnan).

In this paper, the holotype of *Thecla taxila* var. *ultramarina* Fixsen, 1887, was also shown. D'Abrera (1993) illustrated a male housed in The Natural History Museum, London (BMNH), as holotype, but the BMNH male is not true holotype because the collecting date (July 17) does not match that (July 7) stated in the original descritpion by Fixsen (1887). True holotype is a male (Fig. 13) kept in the collection of St. Petersburg Museum. The type locality of *ultramarina* has so far been unknown exactly, and it is now clarified as Pungtung based on the label expression abbreviated as "PgTg".

(Accepted June 25, 1996)

Published by the Lepidopterological Society of Japan,
c/o Ogata Building, 2-17, Imabashi 3-chome, Chuo-ku, Osaka, 541 Japan